

第1章 三股町の現況

1. 町の概況・人口

1.1 位置と地勢

- ・ 県内第2位の人口規模である都城市に隣接し同一の生活圏を形成している。
- ・ 道路ネットワークの形成により、アクセス性に恵まれた立地である。

本町は、宮崎県南西部に位置し、県内第2位の人口規模を誇る16万人都市の都城市に隣接しています。平成の大合併で周辺自治体が広域な都市へと姿を変えていくなか、本町は自主自立の道を選択し、コンパクトなまとまりを持つまちの姿を維持しています。

面積は110.02k m²で、約70%が鰐塚山系の森林に囲まれています。まちの中央を東から西に流れる沖水川により河岸段丘や扇状地が形成され、そこに開けた平野に田畑や住宅地が広がっています。市街化が進むまちの西部は、都城市の市街地と連なっており、都城盆地として同一の生活圏が形成されていることを物語っています。

交通インフラとしては、JR日豊本線がまちの中心を貫き、三股駅・餅原駅の2駅を有しています。また、宮崎自動車の都城ICや山之口SICが近いことから、県央・県北だけでなく、九州主要都市へのアクセス性にも恵まれています。さらに、国県道等の一般道の整備も進んでおり、宮崎空港や宮崎港、油津港、志布志港などの物流拠点まで所要時間約1時間という道路ネットワークが形成されています。今後、都城志布志道路や東九州自動車道の整備促進により、その交通利便性はますます高まることが期待されます。

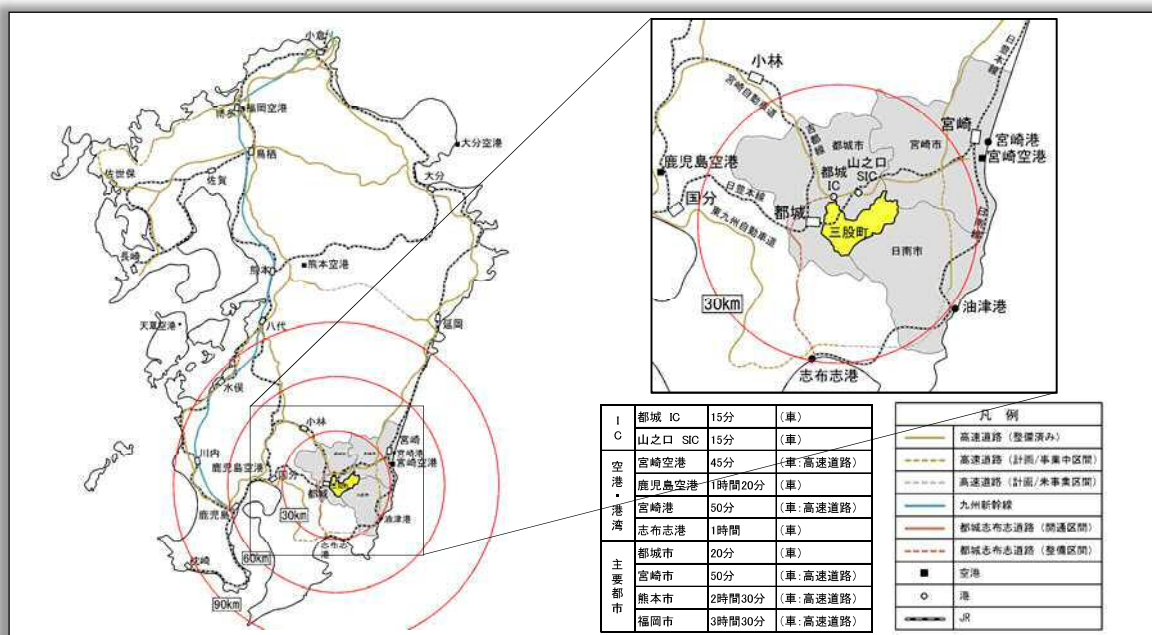


図-1-1 三股町の位置



1.2 人口等の推移

- ・人口は増加傾向が続いており、町の西側地域での人口の増加傾向が強い。
- ・まちの中心部と都城市に隣接する西部における人口密度が高い。
- ・自然動態、社会動態ともに増加傾向が続いている。

(1) 人口の推移

本町の人口は、平成22年24,800人、平成27年で25,404人（国勢調査結果）であり、宮崎県内でも珍しく、増加傾向が続いています。一方、世帯数は人口よりも増加傾向が強く、世帯人員は減少している傾向にあります。

人口の推移を都市計画区域・用途地域内外で確認すると、用途地域内は一貫して人口の増加が続いています。一方、用途地域外（都市計画区域内）は、平成17年まで人口が増加していたものの、平成17年から平成22年は減少に転じています。また、都市計画区域外は、平成12年から減少傾向に転じている状況です。

表-1-1 人口・世帯数の推移

(単位:人,世帯,人/世帯)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	18,832	21,011	22,941	24,056	24,545	24,800	25,404
世帯数	5,911	6,837	7,988	8,565	9,061	9,503	9,967
世帯人員	3.2	3.1	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5

出典:国勢調査

表-1-2 人口(都市計画区域・用途地域内外)の推移

(単位:人,%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	増減率 (H12→H22)
行政区域	18,832	21,011	22,941	24,056	24,545	24,800	3.1
都市計画区域	17,439	19,431	20,617	21,703	23,003	23,350	7.6
用途地域指定区域	11,819	12,927	13,697	14,193	14,404	15,741	10.9
用途地域指定外区域	5,620	6,504	6,920	7,510	8,599	7,609	1.3
都市計画区域外	1,393	1,580	2,324	2,353	1,542	1,450	-38.4

出典:宮崎県都市計画基礎調査調査 都城広域都市計画区域(三股町)

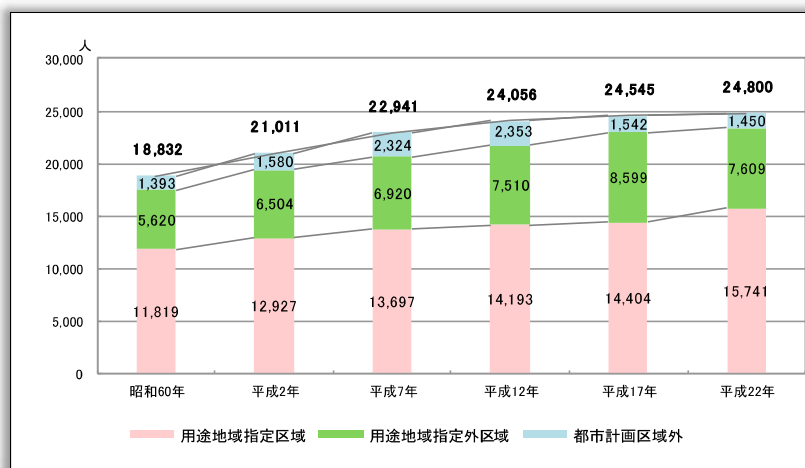


図-1-2 人口の推移

地域毎における過去20年間の人口の増減（H9→H29）を確認すると（本頁の上図）、特に町の西側地域（蓼池・前目・三原、今市・花見原・中原・下新・稗田・西植木・東植木）において増加人数が多い他、町の中心地である仲町でも増加人数が多くなっています。

また、本頁の下図に示す増減率を確認すると、増減率が高いのが西部にある中原や北部の三原である一方で、町東部の大八重・大野・仮屋では減少傾向にあることが確認できます。

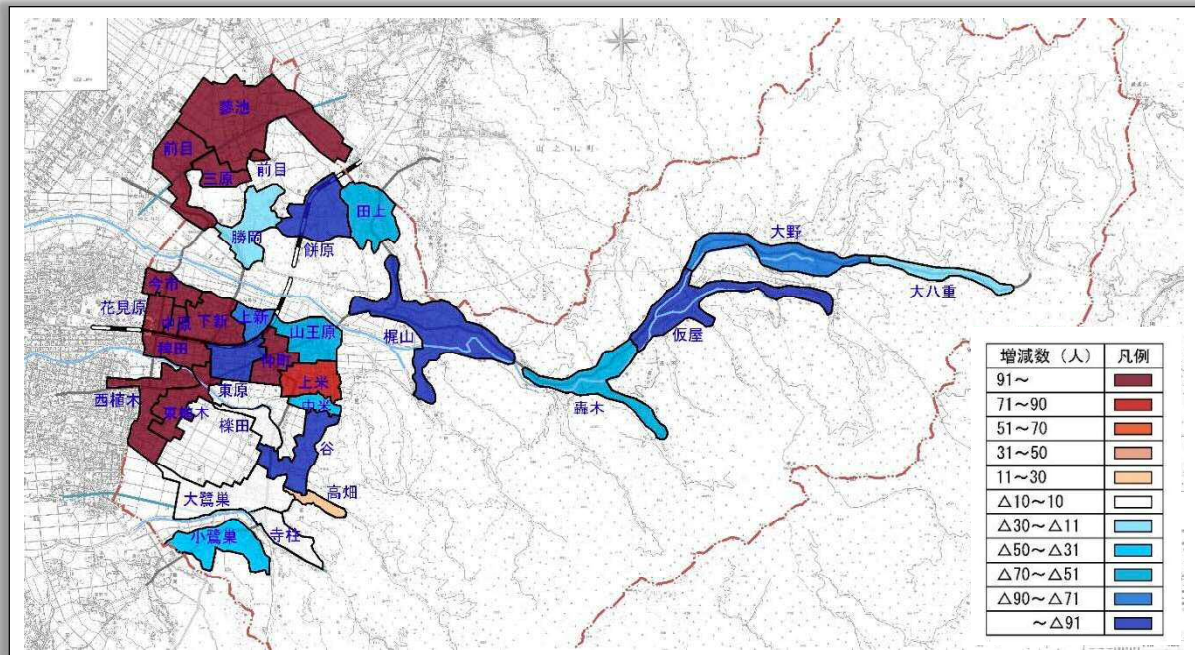


図-1-3 人口増減数(H9→H29)

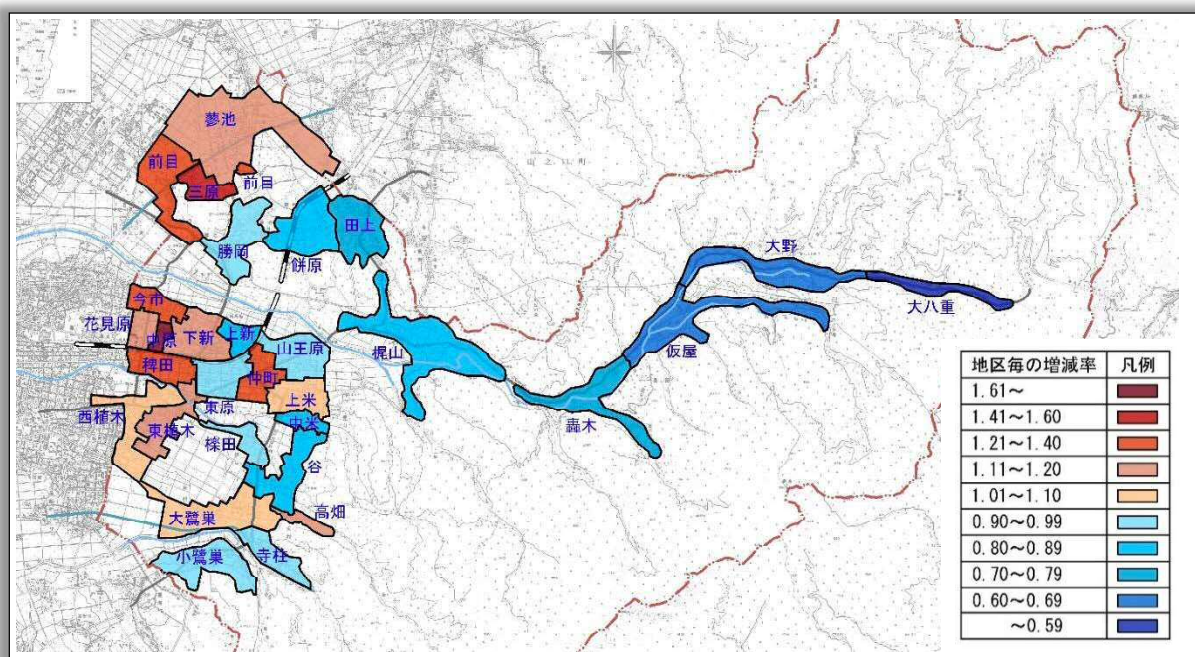


図-1-4 人口増減率(H9→H29)

(2) 人口密度

人口密度については、用途地域内の人口密度が年々増加しているのに対して、用途地域外（都市計画区域内）はほぼ横ばいであることから、概ね用途地域内への人口集積が進展しているといえます。

図-1-6 で人口密度の状況を確認すると、特に町の西側の住居系用途地域での人口の集積がみられます。その一方で、用途地域外においても開発行為によって一定の人口集積がみられる状況が確認できます。

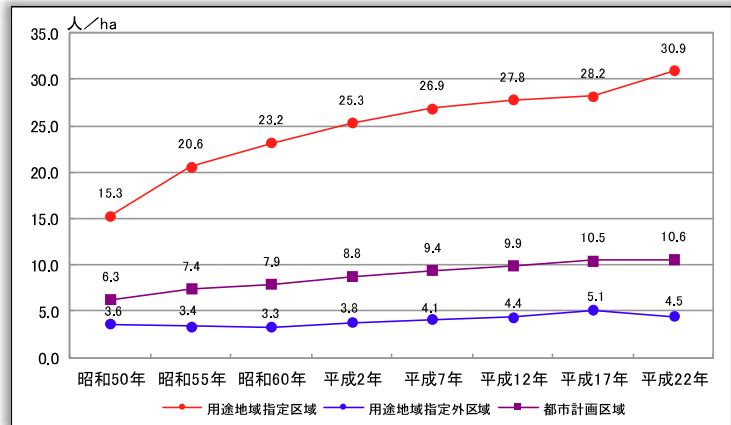


図-1-5 人口密度の推移

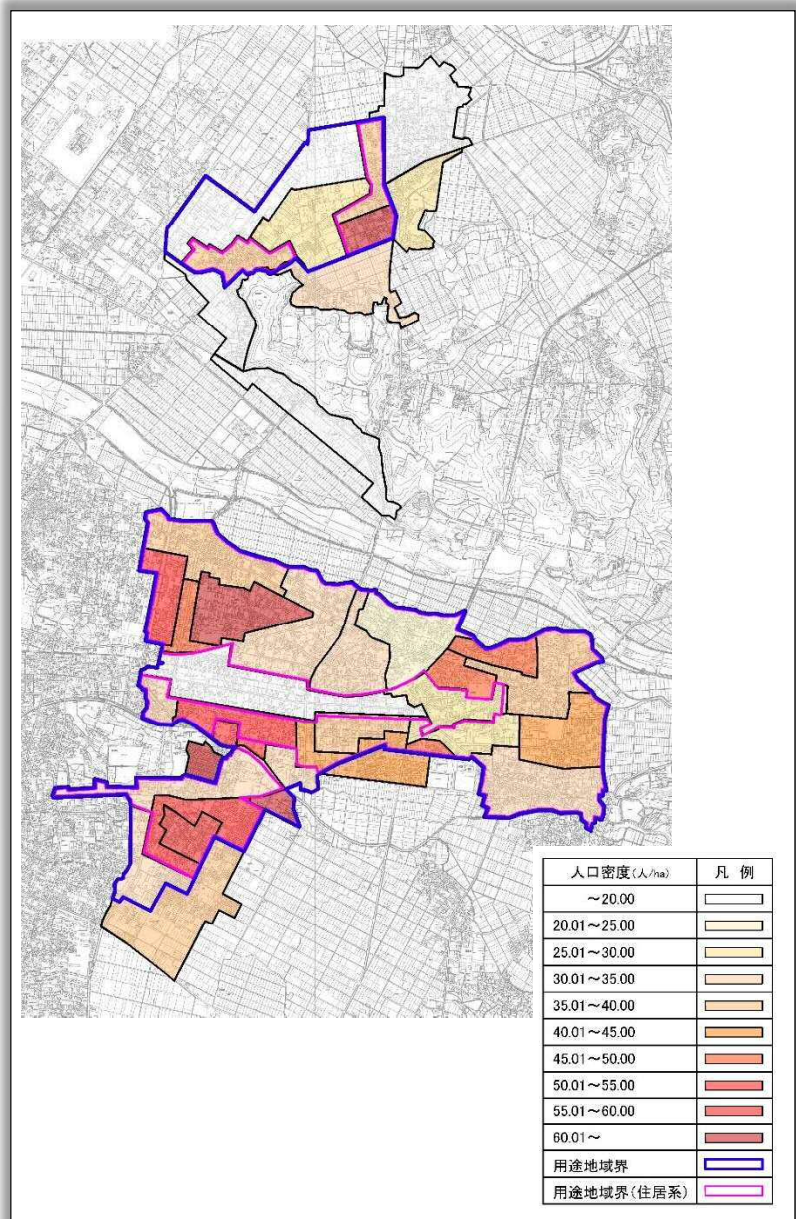


図-1-6 人口密度の現況図

(3) 人口動態（自然・社会増減）

住民基本台帳に基づく出生数は昭和55年(1980年)以降で見ると、平成15年(2003年)から平成20年(2008年)にかけて減少しましたが、平成21年(2009年)以降は回復し、年間約260人程度とほぼ横ばいで推移しています。また、同じ時期の死亡数は、年間約130人で推移していましたが、近年は約240人へ増加しており、自然増減としては、年によってマイナスはあるものの自然増で推移してきました。

社会動態については、昭和55年(1980年)以降、転入が転出を上回っており、社会増の傾向になっています。

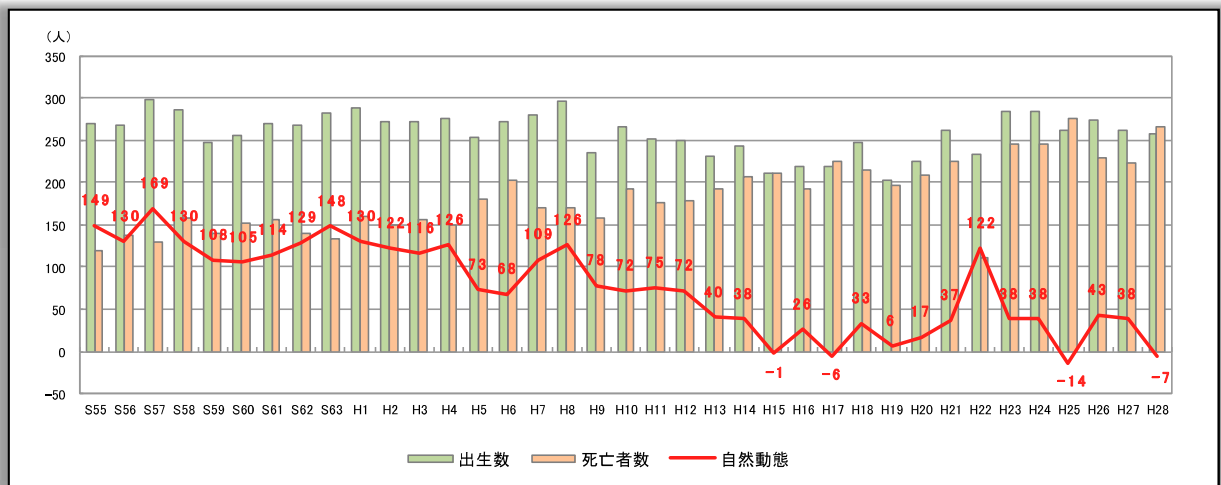


図-1-7 自然動態の推移

出典:住民基本台帳

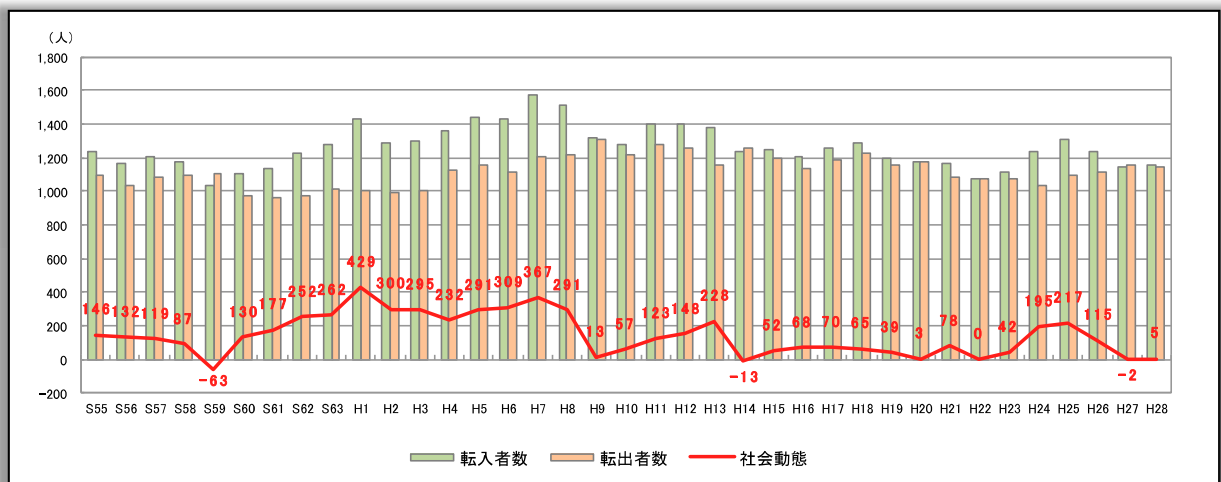


図-1-8 社会動態の推移

出典:住民基本台帳



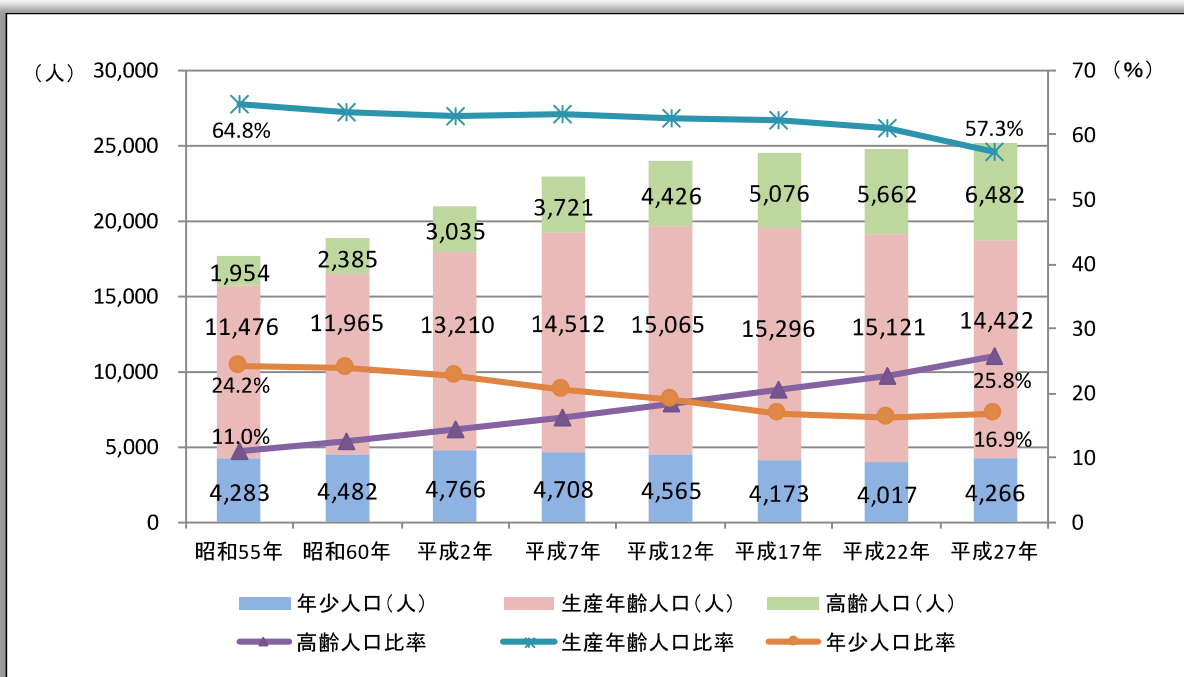
1.3 年齢別人口

- ・年少人口、生産年齢人口は減少傾向、高齢人口は増加傾向にある。
- ・今後も少子高齢化が進行することが予想される。

本町の階層別人口は、平成27年現在、年少人口（0歳～14歳）4,266人、生産年齢人口（15歳～64歳）14,422人、高齢人口（65歳以上）6,482人となっており（分類不明234人）、生産年齢人口は減少傾向、高齢人口は増加傾向になっております。また年少人口は平成22年から平成27年でやや回復がみられるものの、俯瞰的にみると平成2年をピークに減少傾向にあります。

図-1-10～図-1-12で、エリア別の人口比率を確認すると、町の西側や三原地域において年少人口比率が高い一方で、高齢人口比率は町の東側で高い傾向が確認できます。また、生産年齢人口比率については、町の南側（用途地域外の植木や文化会館の西側）で高い状況になっています。

このような状況を踏まえると、本町の総人口は増加傾向にありますが、今後も少子高齢化は進行していくことが予想されます。



出典: 国勢調査

図-1-9 3階層別人口の推移

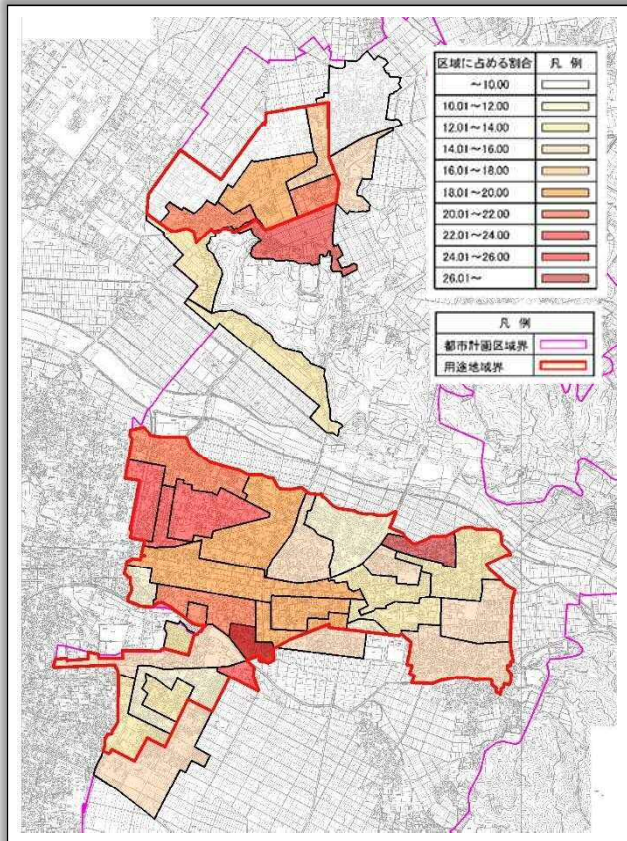


図-1-10 年少人口比率

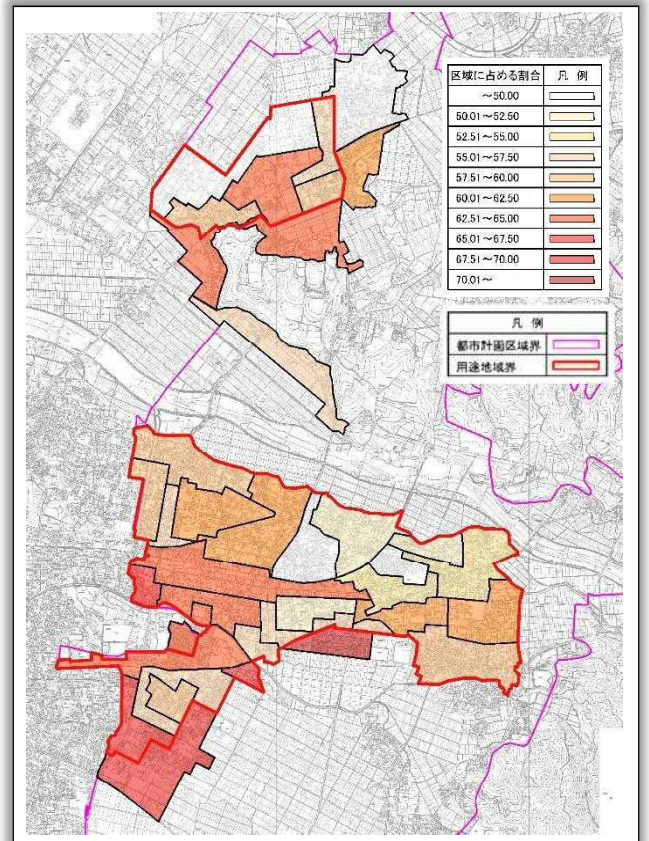


図-1-11 生産年齢比率

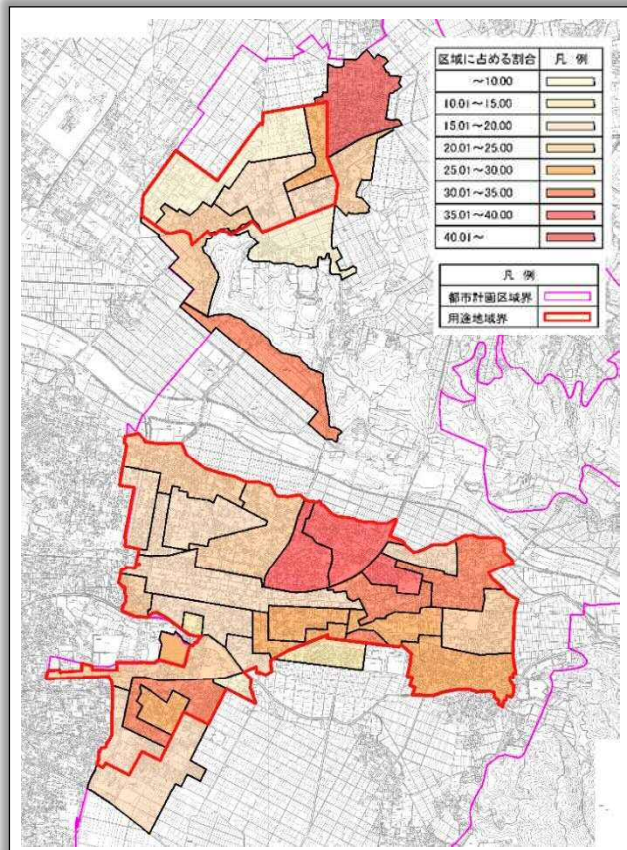


図-1-12 高齢人口比率



第1章 三股町の現況

また、宮崎県内において本町と人口規模が近い市町村（人口15,000人～30,000人）と高齢人口比率と年少人口比率を比較すると、高齢人口は低い率を推移しており、年少人口は高い率を推移していることがわかります。

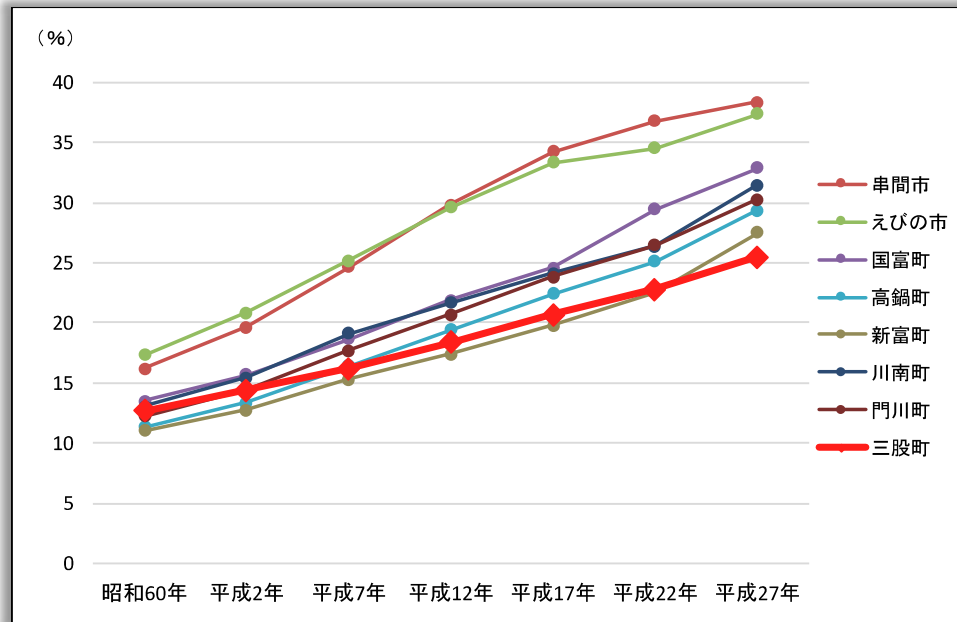


図-1-13 高齢人口比率の比較(県内市町村との比較)

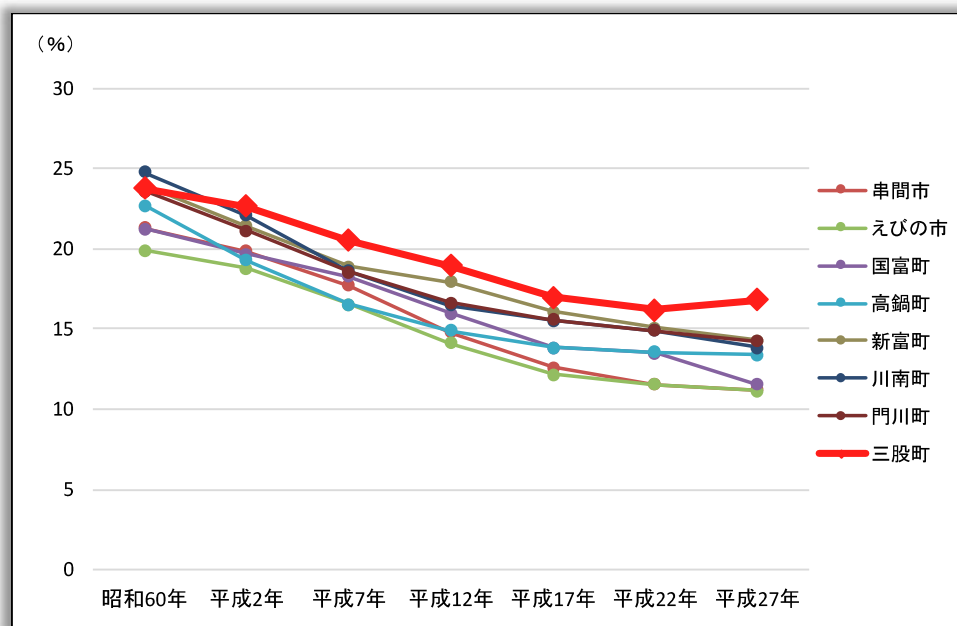


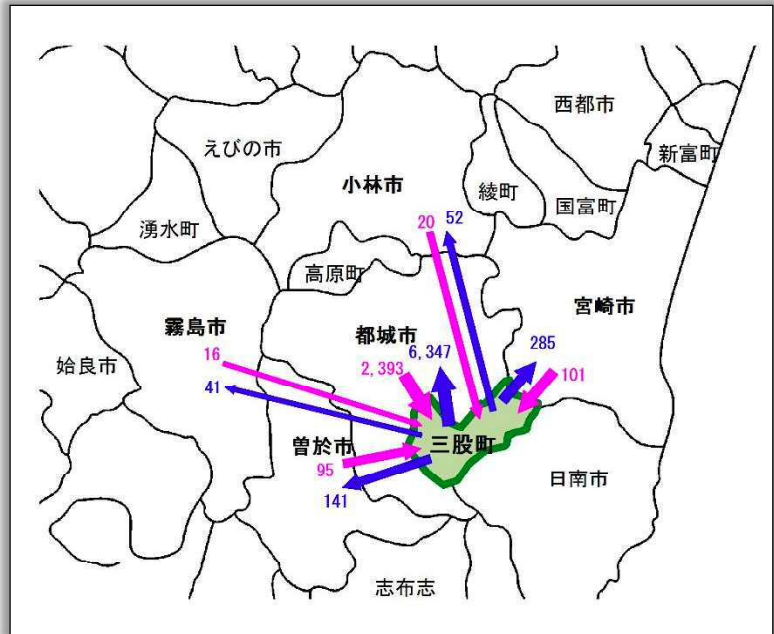
図-1-14 年少人口比率の比較(県内市町村との比較)

1.4 通勤状況からみた都市の性格

- ・流出人口 7,125 人、流入人口 2,692 人の流出超過にある。
- ・周辺市町村では、都城市との結びつきが非常に強い。
- ・三股町の都市性格は「住機能型」に分類される。

本町における通勤の状況を見ると平成 22 年現在、流出人口 7,125 人、流入人口 2,692 人であり、流出超過になっています。

流出先・流入先で最も多いのは都城市であり、2 番目に多い宮崎市との差は大きいものがあります。このように、本町は都城市と密接な関係にあります。



出典:宮崎県都市計画基礎調査調書 都城広域都市計画区域(三股町)

図-1-15 通勤による流出・流入状況

表-1-3 流出・流入人口 (単位:人, %)

	常住地による 就業者数	流出		従業地による 就業者数	流入		就業者 比率 (従/常)
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
平成12年	11,309	6,222	55.0	7,629	2,542	33.3	67.5
平成17年	11,722	6,847	58.4	7,622	2,747	36.0	65.0
平成22年	11,727	7,125	60.8	7,372	2,692	36.5	62.9

表-1-4 流出状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
平成12年	都城市	5,058	高城町	241	宮崎市	220	山之口町	147	山田町	76
平成17年	都城市	5,573	高城町	270	宮崎市	224	山之口町	179	山田町	76
平成22年	都城市	6,347	宮崎市	285	曾於市	141	小林市	52	霧島市	41

表-1-5 流入状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
平成12年	都城市	1,670	山之口町	243	高城町	207	高崎町	86	山田町	83
平成17年	都城市	1,860	山之口町	220	高城町	205	山田町	79	高崎町	74
平成22年	都城市	2,393	宮崎市	101	曾於市	95	小林市	20	霧島市	16



第1章 三股町の現況

また本町は、平成22年現在、県平均と比較して昼夜間人口・自町内就業率ともに低い状況にあり、都市性格指標としては、「住機能型」に分類されます。前頁の通勤状況より、都城広域の市町として、都城市のベッドタウンとしての機能を担っているといえます。

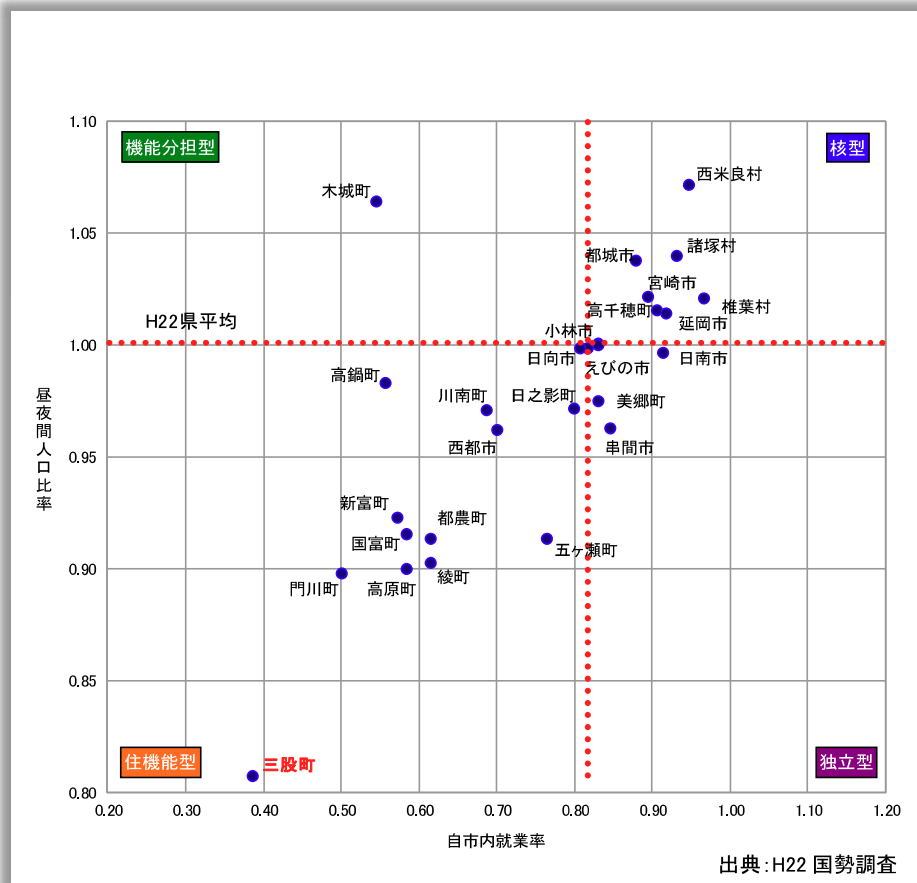


図-1-16 県内主要都市の自市町内就業率・昼夜間人口比率

※都市性格概要

核型：自市内で働く人が多く、就業・就学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能
 独立型：自市内で働く人が多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成
 住機能型：自市内で働く人は少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等のベッドタウンとして機能
 機能分担型：自市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職等の機能に特化

1.5 年齢層別純社会移動数の推移

- ・年少期、現役期、熟年期・長寿期においては、概ね転入が転出を上回っている。
- ・社会的自立期においては、15～19歳・20～24歳で転出が大きくなっている。

右図は、年齢層による純社会移動（転入-転出）数を示したものです。具体的には、昭和60年（1985年）から平成22年（2010年）まで5年ごとの期間について、年齢別に純社会移動数の変化を示したものです。

年少期においては、ほぼ全ての期間において転入が上回っており、就学前から就学前後の子どもがいる世帯の転入が多いことを示しているといえます。

高校・大学などを卒業し、進学・就職する社会的自立期においては、15～19歳、20～24歳の転出が大きくなっています。一方、25～29歳の若者は転入超過にあります。転入数は減少傾向にあります。

現役期については、昭和60年（1985年）から平成17年（2005年）までの期間では、すべての年齢層で転入が転出を上回っていましたが、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）は45～49歳で転出が若干上回る結果となりました。

熟年期・長寿期については、ほぼ全ての年齢層で転入が転出を上回っています。

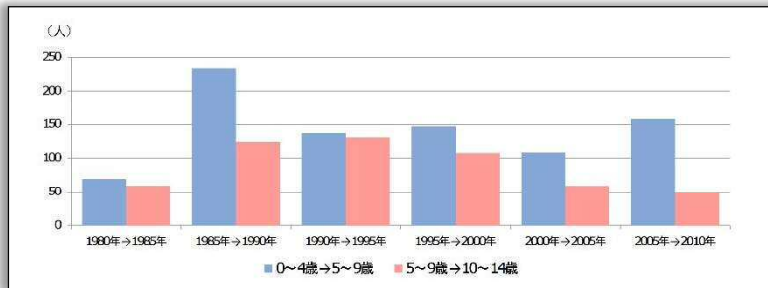


図-1-17 年少期 0～9歳→5～14歳の社会移動数の推移

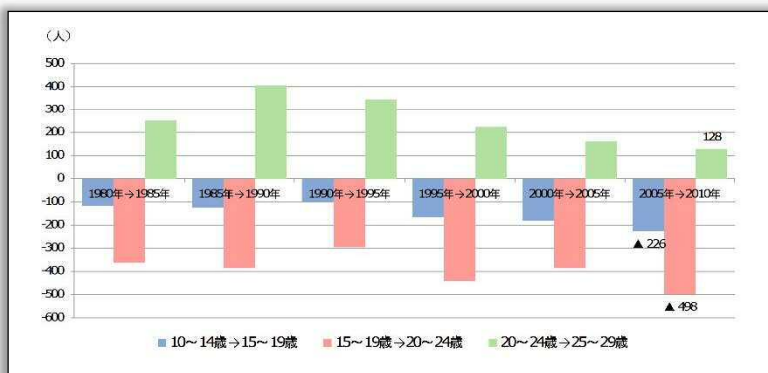


図-1-18 社会的自立期 10～24歳→15～29歳の社会移動数の推移

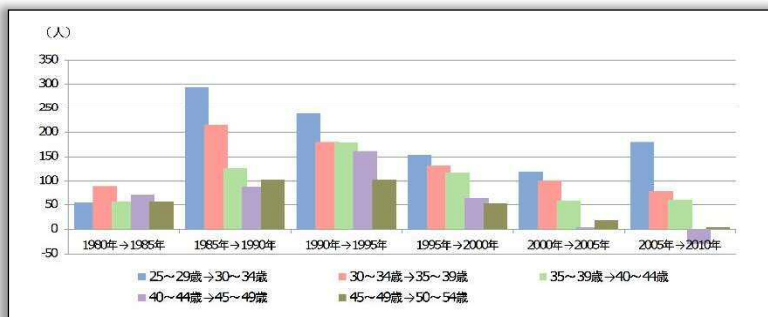


図-1-19 現役期 25～49歳→30～54歳の社会移動数の推移

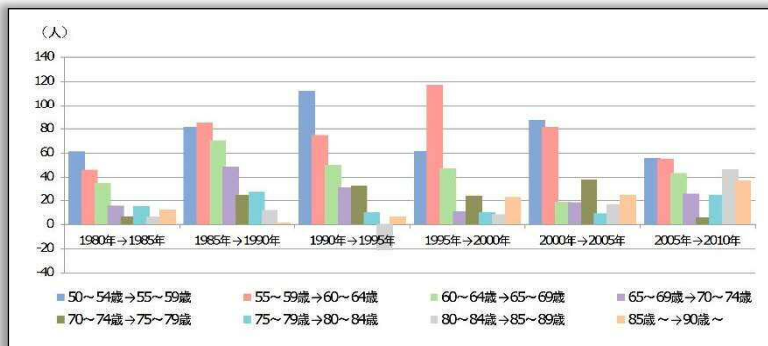


図-1-20 熟年期・長寿期 50～85歳→55～90歳の社会移動数の推移

出典：三股町まち・ひと・しごと創生 総合戦略



1.6 小中学校の児童・生徒数

- ・ 小学校の児童数は増加傾向にあり、中学校の生徒数はほぼ横ばいの状況にある。
- ・ 町内の西部・中部から梶山・長田小学校に通学するスクールバスの運行を開始している。

本町における小学校の児童数は、平成24年度に1,579人まで減少したものの、その後増加傾向に転じ、平成29年度には1,795人になっています。

最近では、町民の多様な教育ニーズに対応することを目的として、町内の西部・中部から梶山小学校・長田小学校に通学することを可能とし、スクールバスも運行しています。

一方、中学校の生徒数は近年ほぼ横ばいの状況にあります。

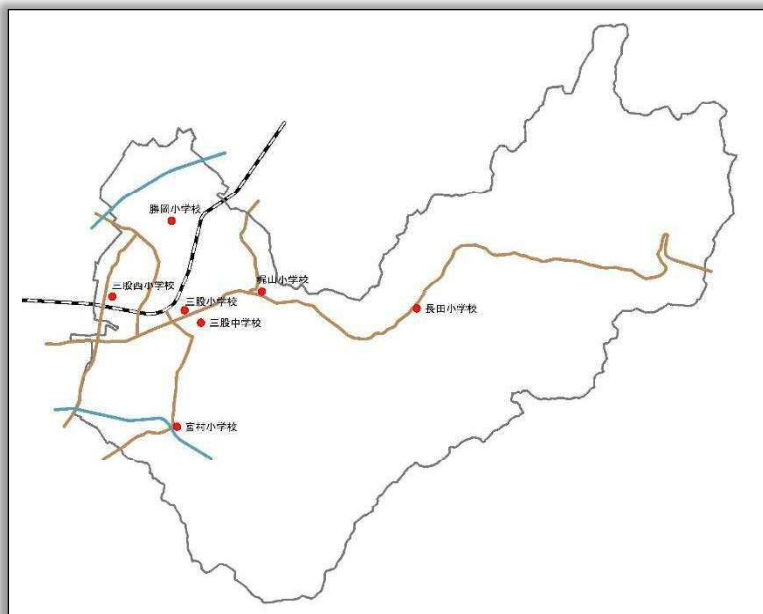


図-1-21 小学校・中学校の位置図

表-1-6 小中学校の児童・生徒数の推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
三股小学校	532	502	469	460	435	416	424	414	431	438	481
勝岡小学校	298	303	294	300	292	268	275	283	295	299	311
梶山小学校	70	74	68	68	65	59	64	68	69	63	71
宮村小学校	85	73	80	74	74	71	91	97	105	114	124
長田小学校	33	36	29	27	25	22	24	21	19	25	33
三股西小学校	759	731	732	726	741	743	734	752	770	763	775
小学校計	1,777	1,719	1,672	1,655	1,632	1,579	1,612	1,635	1,689	1,702	1,795
三股中学校	958	927	918	916	853	830	806	794	781	801	793

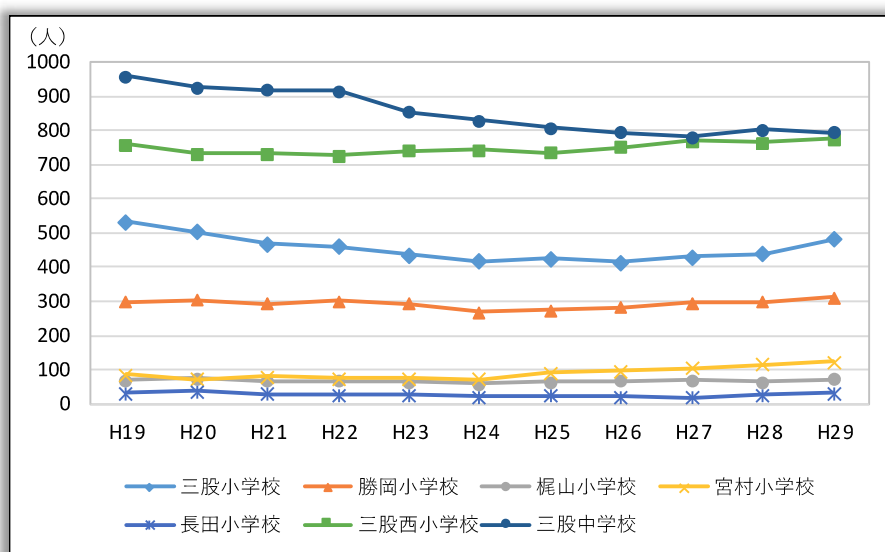


図-1-22 小学校・中学校の生徒数の推移